

令和7年度 学校評価アンケート結果について

春の訪れを感じる季節となり、桜の開花が待ち遠しい頃ですが、保護者の皆様におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、昨年12月にご協力をいただきました「教育評価アンケート」では、貴重なご意見をいただき心より感謝申し上げます。結果がまとまりましたので、下記の通りお知らせいたします。職員一同、結果を真摯に受け止め、今後の教育活動に生かすよう努力していく所存です。2月16日の富学協（富勢地区学校運営協議会）におきまして、今回の評価結果を受け、次年度に向けた本校の課題や改善点についてご報告させていただきました。今後とも保護者の皆様には、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【学校評価の実施について】

◇実施期間 令和7年12月1日（月）～12月10日（水）

◇対象 富勢西小学校 保護者・教職員・児童

富勢地区学校運営協議会運営委員（本校選出）

【学校教育目標について】

◇学校教育目標 「自ら学び 心豊かに たくましく生きる 富勢の子の育成」

◇目指す学校像 ①元気いっぱい 夢いっぱい 笑顔あふれる学校

②安全・安心な学校

③子どもたちが主役の学校

④歌声が響く学校

◇今年度の重点 「自分を大事にし、友達を大切にできる力の育成」

1. アンケート結果の概要

アンケート結果の全体的な傾向として、「授業の分かりやすさ」や「学校行事の充実度」に対する満足度が非常に高いことが確認されました。児童はグループ学習や行事を積極的に楽しんでおり、教職員も組織的な連携体制に自信をもっています。

一方で、「自己肯定感」および「失敗を恐れない姿勢」の育成については、保護者・児童双方の回答において課題が見られます。また、地域社会との連携や学んだことを家庭・地域で活用する実践力についても、更なる改善の余地が示唆されています。教職員間では高い協力体制が築かれているものの、地域貢献やプロジェクト学習の充実度に関しては慎重な自己評価となっています。

2. 教育活動と言語・学習環境の分析

2.1 授業の質と主体的学び

児童と保護者の双方から、授業の質に対して肯定的な評価が得られています。特に児童の回答では、先生の教え方の工夫を評価する声が多く挙げられています。

- **授業の理解度：**児童の約94%が「授業が分かりやすく、先生が工夫している」と回答しています。
- **主体的・対話的な学び：**保護者は「子どもが自分の考えをもっている」と感じている一方で、「意見を発表し、話し合う機会」については約34%が「あまり思わない・思わない」と回答していて、発信力の強化を求める傾向があります。
- **教職員の自己評価：**教職員の多くが主体的な学びを促す授業づくりに努めていますが、「グループ学習やプロジェクト学習の充実」に関しては5名が「あまり思わない」として、手法の改善に余地があります。

2.2 挑戦する心と自己肯定感

本調査において最も顕著な課題として浮き彫りになったのが、児童の内面的な成長に関する項目です。

評価指標	肯定的な回答（児童）	否定的な回答（児童）
難しい問題への挑戦	101名	44名
自己肯定感（自分の良さ・自信）	96名	50名
進んで勉強・読書に取り組む	94名	52名

保護者の視点でも、質問⑤「失敗を受け入れ、前向きに取り組む姿勢」は約30%が否定的な評価を下しています。教職員側も、挑戦を育む支援については肯定的ながらも、道徳教育や感性の育成に関しては改善の余地（21名中3名が否定回答）を認めています。

3. 学校環境と組織運営の評価

3.1 安全・安心な環境

学校の安全性と環境維持については、保護者・児童・教職員からそれぞれ高い信頼を得ています。

- **教職員の連携：**教職員全員が「連携や協力体制が整っている」と回答していて、組織としての基盤は極めて強固であります。
- **安全管理：**保護者の約80%が学校の安全・安心への取り組みを認めていて、教職員も全員が肯定的に評価しています。

- **児童の満足度:** 児童の約 87%が「学校で楽しく過ごせている」と回答しています。

3.2 情報共有と相談体制

学校からの情報発信（HP・連絡帳・Classroom等）は、保護者から非常に高く評価されています。しかし、児童の視点では「困った時に先生に相談できるか」という問いに対し、約 31%が否定的な回答をしていて、相談のしやすさという点では課題を残しています。

4. 地域・保護者との連携

4.1 地域連携の現状

地域との関わりについては、一定の活動実態はあるものの、その質的向上を求める声が見られます。

- **児童の参加:** 児童の約 73%が地域のイベントや活動に参加経験ありと回答しています。
- **教職員の懸念:** 教職員の約 24%が「地域社会との連携」や「地域貢献力の育成」に対して「あまり思わない」と回答していて、地域教育の構造化に課題を感じています。
- **家庭・地域への還元:** 保護者の約 31%が「学んだことが家庭や地域で生かされている姿」を実感できておらず、学習内容の実社会への適用が課題となっています。

4.2 保護者との協力関係

保護者との連携について、教職員は全員が「整っている」と回答していますが、約 30%の保護者側が連携や学校行事への参加しやすさ、相談しやすさについて改善の余地を感じています。この認識の違いは、今後注視すべき点です。

5. まとめ・今後の方向性

本アンケート結果をまとめると、以下の3点が今後の重点施策として考えられます。

1. **チャレンジ精神の育成:** 児童が失敗を恐れず、自己肯定感をもって挑戦できるような支援体制を、家庭と連携して構築する必要があります。
2. **対話と発信の質の向上:** 授業におけるグループ学習やプロジェクト学習をさらに充実させ、児童が自らの意見を他者に伝え、協力して解決する機会を増やします。
3. **地域連携の再定義:** 単なる行事参加に留まらず、学習した内容を地域課題の解決や家庭での実践につなげるための手立てを検討して、教職員・保護者・地域の三者が一体となった教育体制を強化します。

学校環境の安全性や情報共有の仕組みが確立されている現状を土台として、今後はより児童の内面的な成長と社会的な実践力に焦点を当てた教育活動を展開していきたいと考えています。

6. 学校関係者の皆様からのご意見

6.1 保護者アンケート結果から

- 高評価の回答が多く、先生方への信頼度が高いと感じました。保護者の方々が学校に期待し、感謝をしてくださっている様子が分かります。
- 世の中に出てからの子どもの姿を考えているように思えました。そのため、⑤⑬⑱⑲は肯定的評価が低かったのではと感じています。
- 評価が低かった項目については、家庭での声かけや働きかけも必要で、先生方の努力だけでは難しいと思いました。

6.2 児童アンケート結果から

- 生活・学習共に、児童にとって良い環境で、学校で過ごす時間に満足している児童が多数と感じました。先生方の努力が伝わっていると思います。
- 「困ったことを先生たちへ相談できますか？」の質問に対して、否定的な回答が一定数あったことが気になります。どの先生にも相談しやすい雰囲気が必要ですね。
- 自己評価や主体性の低い児童もいるようで、周りの大人の導きや、意識した接し方の積み重ねが大切だと思いました。

6.3 教職員アンケート結果から

- 児童のために学習環境を整え、「感謝や思いやりの気持ち」が育っていると保護者も児童も感じていることは、とても良いことだと思います。
- 先生方にとっても良い環境であることは大事ですね。先生方の雰囲気や、学校の空気が変わると思います。
- 保護者との連携や相談体制について、教職員アンケートでは全て肯定的な回答でしたが、保護者アンケートでは3割近い否定的な回答が見られるので、その相違点を確認してもらえればと思いました。
- 先生方と地域との関係がまだまだ薄いと感じています。もっと地域との関係をもつことができると、地域の方々と協力して共に子どもたちを育てていくことができるようになると思います。

6.4 アンケート全体を通して

- 様々な課題が家庭から学校へと移り、児童の置かれた環境や習慣も多様化している中で、先生方は本当に大変だと思います。少しでも先生方が良い環境で児童と向き合えるよう、できることがありましたらお声がけください。
- 全体として、安全と情報提供の評価が高いことは素晴らしいです。保護者も安心して子どもを預けられていると思いました。
- 子どもたちが助け合ったり協力したりすることが少なくなっているような気がします。地域の行事や活動に参加したり協力したりすることで、地域との関わりを増やしていけると良いですね。地域の方々も声かけをお待ちしております。
- **児童の満足度**：児童の約87%が「学校で楽しく過ごせている」と回答しています。